

令和 3 年 4 月 7 日

秋田大学医学部附属病院において発生した医療過誤と再発防止について

秋田大学医学部附属病院長

南 谷 佳 弘

昨年、当院での腎疾患手術において、適切ではない縫合糸を用いて手術が行われ、再手術が必要となった医療事故が発生いたしました。

患者様ならびにご家族の皆様にご多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

事故の概要につきましては、以下のとおりですが、患者様やご家族のプライバシー保護に万全を期すことを条件にご了承いただいた範囲内で作成しておりますので、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

**【経緯】**

患者様は、本県在住の 5 歳未満の女児で、昨年に腎疾患のため本院に入院され、入院翌日に手術が施行されました。

全身麻酔下で逆行性腎盂尿管造影を施行し、開放右腎盂形成術を行いました。術中に腎盂-尿管吻合を行い、閉創し、手術は終了いたしました。

手術後、診療科内における手術報告時に、使用した縫合糸の確認を行ったところ、吸収性縫合糸を使うべきところ、非吸収性縫合糸を使用していたことが判明いたしました。

直ちに患者様のご家族に対し、非吸収糸を使用したこと、及び吸収糸を用いて再縫合を行う必要があることを説明し、再手術の同意をいただきました。翌日未明、腎盂-尿管の非吸収糸を除去したのち、吸収糸を用いて再縫合を行い、患者様の術後経過は良好で同月に退院となりました。

**【原因】**

使用を予定していた縫合糸について術前の確認を医師が怠っていたこと、術中に使用した縫合糸が非吸収糸であることに気が付かなかったこと、中央手術部における物品保管場所に限りがあり、縫合糸が一箇所に保管することができず複数箇所に保管されていたため、手術時間内に使用すべき縫合糸を見つけることができなかったことが原因と考えております。

## 【再発防止策】

今回の事故を踏まえ、以下の再発防止策を講じます。

### ① 手術に使用する物品の事前確認

当該診療科の主要手術に使用する消耗物品はリストを作成し、予め中央手術部へ提出するとともに、術中に使用する可能性のある物品の準備を術前に中央手術部へ連絡する。もし院内に在庫がない場合、代替品の使用または使用する物品の発注を行う。また、使用する予定の物品を複数の医師、看護師で術直前にも確認する。

### ② 縫合糸の一元化管理

中央手術部で取り扱っている縫合糸を一覧表にまとめ一元化し、すべてのスタッフが検索しやすいようにする。

今回の件につきましては、患者様ならびにご家族の皆様に重ねてお詫び申し上げますとともに、今後、再発防止に向け病院全体で安全対策に取り組んでまいります。

本件に関する問い合わせ先  
医学系研究科・医学部総務課長  
018-884-6005